

行政B(高卒程度)採用試験 農学職専門試験問題

【例題1】 環境保全型農業に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. 農業のもつ物質循環機能を生かし、生産性との調和などに留保しながら、土づくりなどを通じて、化学肥料や農薬の使用などによる環境への負荷を加える持続可能な農業のことを環境保全型農業という。
2. 家畜ふん尿・稲わら・食品^{ざんき}残渣などの有機質資源のリサイクルは、環境保全型農業の考えには含まれない。
3. 環境保全型農業を推進するため、2019年に「持続農業法」が施行された。
4. 土壌診断に基づく施肥や病害虫の発生状況を踏まえた防除など、環境保全に資する技術を積極的に導入する。
5. 有機農業は、環境保全型農業に含まれない。

(正答) 4

【例題2】 反すう胃に関する次の記述のうち、正しいのはどれか。

1. ウシやブタなどの反すう胃をもつ家畜には、粗飼料を十分に与える必要がある。
2. ウシの胃は4つあるが、反すう胃は第一胃と第二胃である。
3. ウシのルーメンと呼ばれるのは第四胃である。
4. 粗飼料中に多く含まれるセルロースは反すう胃では分解できない。
5. ウシの第三胃内にはたくさんの微生物が生息し、セルロースの分解、消化を促している。

(正答) 2

行政B(高卒程度)採用試験 林学職専門試験問題

【例題1】 現在、兵庫県の人工林では、植林されてから何年経過した樹木が最も多いか。
なお、データは「令和元年度兵庫県林業統計書」による。

1. 21年から30年
2. 31年から40年
3. 41年から50年
4. 51年から60年
5. 61年から70年

(正答) 4

【例題2】 植物群落の遷移に関する次の記述のうち正しいのはどれか。

1. 植生遷移が進行し、それ以上群落全体として大きな変化がなく安定した状態を極相といい、日本の極相は、一般的に陽樹が主体の高木林である。
2. 極相の植物群落の姿は、大きなスケールで見れば、その地域の標高と地形によっておおむね定まり、必ずしも森林が極相ということにはならない。
3. かつて里山によくみられたクヌギ、アベマキ、アカマツを種とした森林は、その地域の極相といえる。
4. 遷移初期に出現する種を先駆種といい、極相種と比べて種子の生産量が多く、先駆種の種子は極相種の種子と比べると、小さくて軽い。
5. 森林伐採や山火事などにより植物群落がかく乱・破壊されたところや、耕作放棄地から始まる遷移を一次遷移という。

(正答) 4

行政B (高卒程度) 採用試験 総合土木職専門試験問題

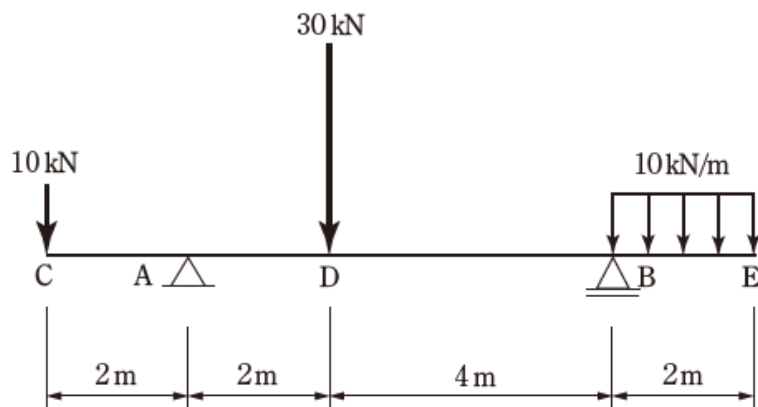
【例題1】 トラバースの種類に関する次の記述A～Cに当てはまるものの組合せとして
 妥当なのはどれか。

- A. 終点の座標が未知なトラバースであり、測量の正確さを確かめられないので、高い精度を必要としない場合に用いられる。
- B. ある点から始まり、最後にふたたび出発点に戻り、全体で一つの多角形をつくるトラバースである。
- C. 既知点を結び、既知点の間の新点（未知点）の位置を求めるトラバースである。

A	B	C
1. 結合トラバース	開放トラバース	閉合トラバース
2. 結合トラバース	閉合トラバース	開放トラバース
3. 開放トラバース	結合トラバース	閉合トラバース
4. 開放トラバース	閉合トラバース	結合トラバース
5. 閉合トラバース	結合トラバース	開放トラバース

(正答) 4

【例題2】 図のように、張出し梁に集中荷重と等分布荷重が作用しているとき、
 支点Bに生じる鉛直方向の
 支点反力の大きさはいくら
 か。



- 1. 30kN
- 2. 35kN
- 3. 40kN
- 4. 45kN
- 5. 50kN

(正答) 1